

北九州市民の会ニュース

第9回北九州憲法共同センター総会開かれる

危険な日米軍事同盟 見直し必要

3月4日、市立生涯学習総合センター3階ホールで、第9回北九州憲法共同センター総会が開かれました。記念講演は、福岡大・城野一憲氏が「安保3文書改訂と立憲主義、平和主義」と題して行いました。参加者は50名でした。総会では、北九州憲法共同センター代表の前田憲徳弁護士が、一年間の活動総括、新年度の運動方針案、財政議案を一括提案しました。運動方針案など、すべての議案は、満場一致で採択されました。

記念講演は、以下のような内容でした。城野氏は、まず、岸田政権が出してきた「安保3文書」を三つのキーワード【抑止、統合、理解】を示して解説しました。

「抑止」では、`存立危機事態、になったとすれば、相手国に対して武力行使ができる。実際には、米軍の判断になる。この折反撃しない判断になる時もある。

「統合」では、自衛隊には、統合幕僚長と統合司令官両方が置かれることになる。統合幕僚長は、防衛大臣の助言を行い、自衛隊の指揮は「統合司令官」が行うことになる。「ACM」(同盟調整メカニズム)とは、米軍と自衛隊の共同行動を平時から”統一”していくシステム。日本有事となった時、自衛隊は、米軍の指揮下に入り行動することになる。自衛隊の装備も、米軍仕様となり、動きやすい軍隊となって機能するようになってきている。

「理解」では、これまでの日本政府とアメリカとの共同の理解が、いつの間にか、国民の理解へとされている。安全保障の変化を国民は理解させられてきているように見える。今後、国内所得の2%を軍事費に使い、日米軍事一体化が政府方針となる。

今まで、世界が見ていた「日本は平和国家」というイメージが岸田政権によって変えられようとしている。国民は、この動きを軽々しく支持すべきでない。政府の防衛力増強の動きは、マスコミも動員し、大量の税金を投入し、国民を「理解」させてきた。国民は当初の『受け入れられない』という状況から「仕方ない」という感覚状況になり、黙る。しかし、このままでは日本は大変なことになる。日米の軍事関係を、国民に正確に認識させることが必要だ。「今、政府の軍事重視の方向は、大変危ない方向に行きつつある。そのことを国民が自覚し行動することが求められている」と結びました。

どうなる？ どうする！ 八幡東区の「まちづくり」

3月26日(日)、「八幡市民会館の活用を求める連絡会」の主催で、八幡東区の「まちづくり」を考える集いがレインボープラザでありました。プログラムは、以下です。

第1に、経過報告と記録冊子完成報告、加来浩倍さん(元八幡市民会館と八幡図書館の存続問題を考える会副代表)の報告、竹下秀俊さん(八幡市民会館の活用を求める連絡会代表)の報告

第2に、これららのまちづくりを考える意見発表：能美はるみさん(門司区民の会事務局長)、山隈玄さん(元北九州市職員)、前園廣幸さん(北九州市の文化財を守る会理事)

第3に、フロアからの発言・意見交流では10名の方々から、熱のこもった発言がありました。これからの八幡東区を「魅力あるまち」にするにはどうすればよいか、「連絡会」で検討していくことになります。

次回連絡会は、4月18日(火)13:30から大谷市民センターで開催されます。



共産党躍進で暮らし・平和に希望を 道府県議選・政令市議選スタート

住民の命・暮らしと平和がかかった統一地方選の41道府県議選と17政令市議選が31日告示され、9道府県知事選、6政令市長選とともに4月9日投票に向けた大激戦がスタートしました。日本共産党は、多くの自治体で住民とともに「オール与党」などの妨害をはねのけ、子ども医療費助成拡大などを実現してきた共産党を伸ばしてさらに政治を前に進めようと強調。コロナ禍や物価高の中、党地方議員団が「悪政の防波堤」や「住民の命綱」となってきたことを示すとともに、大軍拡を開始した岸田自公政権に党躍進で「平和の審判を」と訴えています。道府県議選で188人、政令市議選で166人の候補者が力強く第一声をあげました。(しんぶん赤旗より)

国際女性デー 世界各地で 命守れとデモ トルコ

(写真) 8日、イスタンブールで行われたデモで「家父長制を打ち破ろう」「女性に自由を」と訴える人びと
(秋山豊撮影)



3月8日の「国際女性デー」に合わせ、世界各地でデモ行進や集会が行われ、女性の権利擁護を訴えました。(しんぶん赤旗より)

【イスタンブール=秋山豊】トルコのイスタンブールで8日、女性の権利向上を求めるデモが行われました。女性とともに性的少数者、男性もデモに参加し、市内の一角にある通りを埋め尽くして「女性に自由を」「家父長制を打ち破ろう」と声を上げました。

通りは参加者でいっぱい、歩くのがやっとなです。プラカードと旗を持った参加者の歓声とホイッスルの音が響き、自分の声が聞こえにくくなるほどの熱気です。

参加者は笑顔で、仲間と肩を組んだり、こぶしをあげたりして跳びはねながらスローガンを唱和。「女性であることは何て素晴らしいのだろう」と書いたプラカードもありました。

(以下は藤本修子さん FB より)

3月12日、日曜昼下がり。JR小倉駅ペDESTリアンデッキでNGO新日本婦人の会が中心になった「国際女性デー」実行委員会主催の小倉集会が開催された。足元にはミモザの花籠を置き、腕に黄色のリボンを巻き市民にビラを配った。世界中の女たちは祖母から母、母から自分へ「宿題」を出され続けた。男女平等の世界を切り拓くために女性への参政権を獲得し、自由闊達に意見を述べる権利を持つこと、女であることへのあらゆる差別撤廃を求めた人権問題の基本の「き」の宿題だ。1917年のロシア革命時、女性たちは権利獲得に奔走した。同時期、イギリスでも米国でも女たちは闘っていた。自らの生命を掛けて。日本の女性参政権は戦後、というと驚く若者は少なくない。女性の参政権を求め戦前、女たちは逮捕され拷問された歴史がある。産休、育休制度もその歴史の延長で先人、先輩らが闘わねば得る事ができなかった。1977年国連は3月8日を女性への差別撤廃、平等と活躍を支持する記念日にした。男にこんな運動はない。何故ならば為政者らの自分の身を守る道具として男女差別を利用したからだといっても過言ではない。21世紀。これだけ情報ツールが発達して尚、為政者は男女の「性差」で国をコントロールしようとしている。多様性の前にある人権！万歳！国際女性デー。

川内原発の60年運転を許すな！ さよなら原発！3.19北九州集會

3月19日(日)、「さよなら原発！3.19北九州集會」が開催されました。好天気めぐまれました。オープニングは北九州うたごえ連絡会のコーラス。棚次奎介代表世話人の主催者挨拶のあと、深江守事務局長が基調報告で、原発を直ちに廃炉にすべきことを切々と訴えました。基調講演は「川内原発の60年運転を許すな！鹿児島現地からの報告」を向原祥隆氏(ストップ川内原発！3.11鹿児島実行委員会共同代表)が、元気に表明された。集會宣言をして、小倉駅までパレードし、市民にアピールしました。

原発いらない！再稼働反対
原発いらない！命が大事
原発いらない！電気は足りてる

(以下は、竹内俊一さんのFBからです)

今日は、さよなら原発3・19北九州集會の日。僕の仕事は音響担当。個人的には兼撮影(^_^; 原発再稼働に大きく舵を切った岸田政権だけど、原発政



策でうまくやれていることは一つもない。やっぱり原発は廃炉以外にないです。今日のゲストは、ストップ川内原発！3・11鹿児島実行委員会共同代表の向原祥隆さん。向原さんらは最近「川内原発20年延長を問う県民投票準備会」を発足させ、九電川内原発の運転延長の是非を問う住民投票の実現を目指す予定です。鹿児島県においても原発がどれほど自然界を破壊しているかについても詳しく触れていました。岸田内閣の非常識を、市民の常識で駆逐することが必要ですが、市民の声を大きく発して、世間を覚醒させる必要があります。写真を撮りながら、参加者数ある程度カウントしていましたが、500名+恐竜1(笑)は決して盛りすぎではない数でした。でもあれね、やっぱり3・19でなくて3・11にこだわりたいね。